

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作り上げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議等で理念を共有している。日々のミーティング時に唱和している。自己管理手帳を導入し、日々理念の実践に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設の広報誌、施設からのお手紙にてご家族への理念の浸透に努めている。運営推進会議にて地域の方々へホームの運営や理念を理解頂くよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣接している養護老人ホームの利用者の方々との挨拶をしたり常日頃利用者の交流ができるような機会を設けている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	花見や納涼祭等地域の人々と交流を図っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所として事業の基盤を現在は確立している途中であり、今後サービス提供の余力がで次第、地域貢献等に取り組んでいきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を受け、建物のハード面もサービス提供に関するソフト面も、利用者へのサービスの質を高めるために具体的な改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告を行い、そこでの意見等をサービス内容に取り入れている。	○	各委員からいただいた意見は、サービスへの反映は勿論のこと、その結果等についても報告を行っていききたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	空き状況等を報告したり、ケアマネジャー連絡協議会等を通して、入居者の課題解決の為に市に支援をして頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員個々では、学んでいるが、全体でのその制度の学びは行っていない。	○	今後、その制度利用者等が入居する可能性もある為、学ぶ機会を持ち、制度理解し支援していききたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加したり、職員同士で注意しあう関係作りをし防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約書及び重要事項説明書等を、十分理解していただくよう説明を行っている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情受付担当者をおき、管理者においては、その苦情解決責任者になっている。法人内で苦情解決第三者委員を設置し、その会で報告をしたり、運営推進会議においても報告をし、サービスの質の向上につなげている。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	毎月利用者の1ヶ月間の生活状況を紙面にて報告している。	○ 受診の際には、入居者の状態等を記載した「生活状況のお知らせ」を主治医・家族に報告している。健康状態の変化等にはすぐに家族に連絡し、協力を得ている。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情受付ボックスを玄関口に設置している。 ・当法人における苦情解決第三者委員のポスターを玄関口に掲示している。 	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	管理者と職員の定期的な面接を実施し、意見交換を行っている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	入居者の状況変化や家族の要望等に対応し、勤務の調整に努めている。	○ 今後も夜勤帯に夜応者2名を自宅待機とし、入居者の状態変化時の体勢作りをしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループ内での人事交流を活発に行い「閉ざされた世界」で「慢性的なケア」を防ぐよう努めている。当然利用者への影響をしっかりと考慮して異動等の場合は事実がはっきりした時点で利用者に伝えるようにしている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	E式人事システム並びに自己管理手帳を活用して個別の能力向上、開発に努め、段階的な育成を行っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元のケアマネ協議会への加入やグループホーム協会の研修会に積極的に参加し、サービスの質の向上に努めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	養護、特養職員との合同職員会議の実施や親睦会を通してストレス軽減に努めている。年2回の管理者との面接の実施の機会を設けている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	E式人事システム並びに自己管理手帳を活用して個別の能力向上、開発に努め、段階的な育成を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に当ホームの見学をして頂き、ご本人様にホームの雰囲気を感じて頂く。また、ご本人様の基本情報シートを作成し、職員間で周知することとしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にはご本人様と共に当ホームを見学して頂いている。その際、ご家族と面接し、情報シート作成に加え、ご家族からの相談や要望等を聞く時間を設けている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者がご本人様・ご家族様と面接を行い、必要に応じたサービスの助言をさせていただいている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前のホーム見学と、他入居者とお茶を飲みながら会話したり交流する機会を設けている。職員とも会話する機会を多く持ち、現状のサービス内容への不満や希望を聞かせて頂いている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理、掃除、洗濯等日常生活動作を一緒に行うことで入居者のできることを引き出し、共に支えあえるような関係作りを心掛け、実施している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月に1回利用の生活の状況をお知らせする「穂の香メール」等を送付している。来訪時は随時状況を報告している。	○	家族からの情報により生活歴等を把握し、その方の特性を生かすことのできるような支援をしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	時には家族になったりすることで本人の不穏状態の緩和に努めているがより良い関係への支援になっているかどうかは分からない。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が外出等の希望がある場合は、家族と連絡調整し、実施できるよう努めている。	○	本人の訴えを否定せず、傾聴することでなじみの場所との関係が途切れないよう支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食器拭きや洗濯物たたみ等互いに協力し、行っている。又、余暇活動を通してコミュニケーションを図っている。	○	今後も気の合う者同士が食事テーブルの隣席にする等の関係作りをしていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ケースにもよるが、現在までの所、継続的支援が必要な退居者はいない。今後必要な方が発生した場合は支援していきたい。	○	他の施設等に入所した方への面会は行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、本人より意向を聞いている。困難な場合はカンファレンスで話し合い、検討している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や面会時に生活歴等を聞き、把握に努めている。居宅支援事業所等の担当ケアマネジャーに連絡し、サービス利用の経過の把握に努めている。	○ 家族面会時に情報を得たり、居宅支援事業所に連絡し、これまでのサービス利用時の状況を把握している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人の状態が分かるような介護記録をしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族の方に生活に対する意向を伺う。今までの介護計画の評価をもとに新ケアプラン原案を作成する。家族、担当者、計画作成担当者（最低）でカンファレンスを実施、意見徴収し介護計画を作成する。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態変化が生じた場合は家族やかかりつけの先生のアドバイスを受けながら見直しをしている。	○ 定期的な見直し時には家族参加型のカンファレンスを実施するようにしている。本人の状態変化の見直し時にも家族参加型のカンファレンスを実施していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子等を記入している。申し送りノートを活用し情報の共有に努めているが介護計画の見直しには活かされていない。	○	気づきや工夫を個別記録に記入していきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所として事業の基盤を現在は確立している途中であり、今後サービス提供の余力がで次第取り組んでいきたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	外出会時のボランティアや避難訓練実施時等、地域の方々に協力をしてもらい支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は他のサービス利用を希望される方がいないため支援は行っていないが、今後対象者がいた場合は支援していきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	結城市の地域包括支援センターの運営が、本年4月からの開始であるため、まだ協働して支援できる状況にはなっていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診する際には、入居者の状態等を記載した「生活状況のお知らせ」を家族に手渡し連携を図っている。適切な医療を受けられるように支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師に相談して対応等のアドバイスを受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接している施設の看護師に相談しながら支援している。	○	看護職と気軽に相談できる関係作りをした上で支援していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は面会に行く等し、状況の把握に努めるとともに、担当医並びに看護師との連携を図っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	穂の香として、重度化及び終末期に対する支援のあり方をじっくりと検討し、必要があれば取組んでいきたい。	○	認知症対応型共同生活介護事業として、どの程度の役割を担うべきか検討していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	穂の香として、重度化及び終末期に対する支援のあり方をじっくりと検討し、必要があれば取組んでいきたい。	○	認知症対応型共同生活介護事業として、どの程度の役割を担うべきか検討していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	フェイスシートによる情報の詳細の提供や、担当者との連携により、情報の交換に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	ミーティングにおいて入居者の名前をイニシャルで呼ぶことで、プライバシーの保護に努めている。面会簿についても、ノート型ではなく1枚用紙に記入して頂き、その都度専用BOXに入れて頂いている。個人名の入った書類の破棄の際は必ずシュレッターにかけている。また、法人研修会への参加により、全職員のプライバシー確保についての意識を高めている。	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	どんな場面においても入居者を尊重するように努めている。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	入居者の訴えや希望に則した対応を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	本人に服等を選んでもらっている。出張理容が隣接施設に月2回来荘があるので活用している。外部の理美容は、家族の都合でお願いしており、なかなか希望通りに行かないこともある。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	入居者一人ひとりに合った調理器具を使用し一連の作業をスタッフと共に行っている。	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	おやつ時等、好きな飲み物を選んでいただいて、楽しめるよう支援している。お酒の提供はしていない。	
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	排泄チェック表を活用し、入居者それぞれのパターンを把握している。	
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	入浴日は決めず、本人の意志や健康状態に合わせて提供している。3種類の入浴剤を使用し、日替わりで香りや色の違いを楽しめるようにしている。	
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	起床や就寝の時間は、ある程度ご本人様に任せている。在宅での過ごし方をご家族に確認し、少しでも在宅での生活に近づけた生活の支援を行っている。居眠りをする姿等見られたり体調特に血圧等の変動が見られた時には休息への声掛けをしている。	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	日課が決まっている為、「その人らしさ」を最大限に生かすという所にはまだ至っていないが、現状においては外出会を設けたり、天気の良い日にはウッドデッキに出たり、散歩をしたりと気分転換を図っている。	○ 今後において日課の見直しを検討し、地域との交流や活動の場を増やすことで、より家庭的な雰囲気を目指して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持に関しては、本人には持たせていない（金庫に保管している）が、買い物の際は本人に支払いを行って頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回程度の外出会を実施している。また、外にベンチを置き自由に外に出て花等を眺められる環境を作っている。時には買い物（カスミ・山田商店等）にも職員と共に行っている。	○	今後は、個別の外出支援ができるようにサービス提供の方法を検討していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	活動の中には図書館への外出等予定として入っているが、実施していない。お墓参り等の家族への声掛けは行っている。	○	入居者一人ひとりの行きたい場所等の希望を確認し、実施できる範囲で実施していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は入居者の訴え時には行っている。手紙は当ホーム独自の通信手段として広報誌を作成し、その中でやりとりができるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日中において玄関の鍵は掛けておらず開放している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前に学習会を開催し、身体拘束の弊害については、全職員周知している。また、具体的には、日中は玄関は開放している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかけておらず、開放している。そのことで、入居者は自由に出入りし、気分転換が図られている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日勤帯は、入居者の居場所が分かる配置に分かれ、目の届く範囲で見守りを行っている。徘徊者についても、職員が共に行動し安全の確保に努めている。夜勤帯は、全居室が見渡せる場所での待機と定時の巡回を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日勤帯については、食器用洗剤や石鹸などは異食行為防止の為、刃物は危険防止の為に鍵のかからない引き出しに保管してある。夜間帯においては、刃物・薬・洗剤においては、他の入居者の対応中の事故を想定し、事務所や倉庫に保管している。（施錠あり。）		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険性のある入居者・行方不明の不安のある入居者への対応は、職員が見守りや介助を強化し事故防止に努め、窒息防止については、一人ひとりにあった食事（刻みやミキサー食）の提供を行い、誤薬防止については、職員が二人一組みで薬の確認を行い、火災防止については、入居者に喫煙者はおらず、調理にもIHクッキングヒーターを使用している。また、コンセントのほこりに気を付け、定期的に掃除を行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時のマニュアルが作成されており、年1回の訓練を踏まえた学習会を予定している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	当ホームでは月1回の避難訓練が行われており、近隣施設との連携も確立されている。（2ヶ月に1回の防災会議と年2回の合同避難訓練が行われている）		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居する際に管理者より家族等に説明されている(特に転倒事故)・状況変化時におけるリスクについてもその都度家族に説明し、対応策に関してはかかりつけ医のアドバイス等を聞き職員同士で話し合っている。	○	定期的なカンファレンスで年1回は医療体制や緊急時対応について家族と話し合う取り組み中
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日同じ時間にバイタルを測定し、記録に残すことにより職員間で情報の共有をしている。また、異変に気付いた際の職員同士の伝達も日常的に行われている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	高齢者が服用している薬についての学習会を定期的に行っている。また、心身上の変化が見られた際の病院受診には、入居者の状態の経過や変化に関する日常の記録を医療機関に情報提供している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量が少ない入居者には取りやすいゼリー等を提供。食物繊維の豊富なおやつや10時3時に乳酸菌飲料等の提供。リハビリ体操やリズム体操の実施。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一部介助にて入居者の力を引き出せるような支援のもと口腔内の清潔保持に努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのご飯の量が決まっている。水分が足りない方は毎日水分量を測っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	入居者へのうがい・石鹸での手洗いの声掛け・誘導を行っている。また、1日2回の手拭きタオル交換や週3回の入浴による身体の清潔保持、週2回のシーツ交換を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎日消毒を行っている。食材の購入時には消費期限・賞味期限を確認し、新鮮なうちに調理するようにしている。	○	7月期より毎日配食材のタイヘイを利用する予定になっている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般家庭に少しでも近づけるよう、玄関には花を飾り、庭にはベンチを置いたり、プランターをおいたりし、明るい雰囲気作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や折り紙で作った置物が飾られている。	○	もっと家庭的な雰囲気作りをしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数（2、3人）で過ごせる長いすを置いたり、ウッドデッキに出る際にはいすを運んだりして、入居者が思い思い過ごせる居場所の確保をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や食器等を自宅より持っ てきて頂き使用している。殺風景な居室等も あり、家族に相談し、好みのものを持っ てきていただけるよう話している。	○	その人らしい居室作りや本人が居心地良く過 ごせるような工夫をしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気はこまめに行っている。特に朝や掃除時 には必ず行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	建物の構造がバリアフリーなので、車椅子 や歩行器や杖での移動は入居者が自力に て行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	トイレや浴室前には、ここがどこか分 かるような貼り紙をしたり、各入居者の 居室内は入居者のなじみの物品をおい たり、好みの配置を取り入れたりす ることで、混乱を最小限に食い止める 努力をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽 しんだり、活動できるように活かして いる	外にベンチを置いている。花や野菜等 を植えたプランターを置いている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の余暇活動に力を入れる。